

## 薩藩農村人口の動態的研究 (第3報)

## 資料篇 3

羽 生 純 夫

Sumio, HABU.

## 4. 伊 作

## I 引 用 記 録

1. 寛	保	2	(1742)	湯之浦村 竿次帖	31
2. 文	化	10	(1813)	小野村 "	32
3. 文	政	7	(1824)	和田村 湯之浦村 宗門改人数帖	33
4. 天	保	5	(1834)	今田村 中原村竿 次帖	34
5. 天	保	9	(1838)	湯之浦村 "	35
6. 弘	化	2	(1845)	中原村 小野村 花熟里村宗門改人数帖	36
7. 明	治	3	(1870)	人別改帖 (仮称)	37

これらは、伊作町役場に保管されているが、文政7、明治3年の分を除いて、本学原口虎雄氏の好意によつて、同氏が筆写されたものを用いた。

## I 統 計 資 料

第1表 年令階級別人口百分比

西曆 年令階級	1742	1813	1824	1834	1838	1845	1870
1 ~ 5	9.7	10.8	6.6	8.6	6.6	5.8	9.4
6 ~ 10	11.9	8.0	14.4	10.9	7.3	9.1	9.1
11 ~ 15	8.0	3.4	6.2	4.0	6.9	11.4	12.9
16 ~ 20	11.1	5.9	8.6	7.0	10.3	6.2	10.2
21 ~ 25	5.8	6.6	13.2	6.0	10.9	6.7	9.1
26 ~ 30	8.4	10.8	4.9	10.0	6.9	11.4	8.9
31 ~ 35	7.5	9.8	4.9	13.3	10.0	4.9	5.6
36 ~ 40	6.6	9.4	8.6	4.4	8.5	9.1	4.6
41 ~ 45	4.4	6.3	5.8	6.5	7.3	9.5	3.8
46 ~ 50	4.4	7.7	6.6	6.3	6.6	3.6	6.5
51 ~ 55	6.2	5.2	5.3	5.6	3.6	6.0	5.1
56 ~ 60	4.4	7.7	3.9	5.8	3.3	6.2	6.7
61 ~ 65	2.7	4.2	4.5	5.3	4.2	2.7	2.7
66 ~ 70	3.5	2.1	4.1	3.3	2.4	3.5	3.0
71 ~	5.3	1.7	3.3	3.0	4.8	3.9	2.4
總 数	226	286 (308)	243 (252)	430 (435)	331	804 (831)	372

註 1. 括弧内は性、及び年令の判読不能なものを含む。

第2表 性比の推移 (人口100中男)

1742	55.9 (51.0~60.5)	1845	51.9 (48.1~55.6)
1813	49.3 (43.6~55.1)		
1824	53.5 (47.7~59.1)	1813~1845	51.1 (49.2~53.1)
1834	50.2 (45.3~55.2)		
1838	50.2 (44.4~55.9)	1870	46.8 (41.9~51.6)

第3表 年令階級別有配偶率(女)

年令階級	年次	1742	1824	1834	1838	1845	1870
16 ~ 20		5.0	25.0	17.6	0	24.0	5.0
21 ~ 25		55.0	75.0	72.7	19.4	53.6	55.0
26 ~ 30		66.7	100.0	75.0	8.7	71.7	66.7
31 ~ 35		81.8	87.5	70.0	30.3	57.1	81.8
36 ~ 40		63.6	85.7	91.2	44.8	71.4	63.6
41 ~ 45		77.8	85.7	76.9	33.3	75.0	77.8
46 ~ 50		58.8	50.0	63.6	27.3	68.4	58.8
51 ~ 60		48.0	87.5	62.5	21.7	47.9	48.0
61 ~ 70		16.7	50.0	13.6	22.7	30.8	16.7
71 ~		0	0	42.9	38.5	0	0
配偶数		66	58	94	57	159	66

註 1. 1813, は, 年令不明の配偶者が多いため, 省略した。

註 2. 1845, には, 11~15 に 39 名中 7 名の有配者があつた。この表からは除いてある。

## I 動態大要

### 1. 人口の推移

人口の推移を詳かにすることは出来なかつた。たゞ, 湯之浦村で 1742 年 225 が 1838 年に 331 に増えていた。短期間のものでは, 小野村, 中原村で, 門毎の増減がわかるのでそれをあげる。

#### 小 野 村 中 原 村

門名	年次	1813	1845	門名	年次	1834	1845
松前堀福堂室坂中宮	木園	25	—	大新亀原宮山加竹倉長堀市畦	工園	14	11
	木園	22	9		原屋敷	6	5
	福留園	36	21		窪	32	—
	堂留園	19	5		後	14	13
	室留園	18	18		上	5	13
	西之	24	11		ノ	6	13
	上村	25	14		辻治之	10	12
	脇	28	20		屋内園	15	14
	下	20	7		堂内園	12	13
	?	34	35		谷之	12	9
?	17	14		7	3		
	14	10		11	10		
	17	6		12	11		
				10	15		
計		318	170	計		184	142

註. 両村で, 門の減が, それぞれ 1, あるが, 総数との関係は明らかでない。

これによると, 少くとも 1813~1845 の頃は人口が減退しつつあつたのではないかと思われる。しかし, これが出生, 死亡の差によるものかどうかは別である。

## 2. 年 令 構 成

年令階級 \ 年次	1742	1813	1824	1834	1838	1845
1 ~ 20	40.7(35.0~46.4)	28.3(24.2~33.8)	35.8(30.3~42.5)	30.4(26.4~34.8)	31.1(26.5~35.7)	32.6(29.5~35.4)
21 ~ 40	28.3(23.3~34.3)	36.7(31.7~42.4)	31.7(26.8~38.1)	33.8(29.5~38.4)	36.6(31.4~41.4)	32.1(29.0~34.5)
41 ~ 61	19.5(15.1~25.0)	26.9(22.8~32.8)	20.6(16.7~27.9)	24.2(20.8~28.1)	20.2(17.0~25.4)	25.2(22.6~28.8)
61 ~	11.5( 8.4~15.7)	8.0( 6.2~10.7)	11.9( 8.8~16.2)	11.6( 9.3~14.7)	12.1( 9.0~15.0)	10.1( 8.1~12.6)
1 ~ 40	69.0(63.0~74.0)	65.0(58.0~71.3)	67.5(62.0~72.5)	64.2(59.4~68.6)	67.7(62.3~74.2)	64.7(61.8~67.4)
41 ~	31.0	35.0	32.5	35.8	32.3	35.3

年令階級 \ 年次	1813~1845	1870
1 ~ 20	31.7 (29.1~34.4)	41.7 (37.2~47.0)
21 ~ 40	33.7 (31.1~36.5)	28.2 (24.5~32.6)
41 ~ 60	24.0 (21.9~30.4)	22.0 (18.6~26.7)
61 ~	10.6 ( 9.8~11.8)	8.1 ( 6.1~11.2)
1 ~ 40	65.4 (63.0~67.0)	69.9 (66.9~74.3)
41 ~	34.6	30.1

1813~1845では何れの年令階級でも有意の差を示さないから、一括してこの期間の年令構成とする。その結果は1~20で、1742及び1870と有意の差を示す。

更に61~が殆んど差がないから21~60を比較すると、次の通りで、1742~及び1870と有意の差を示す。

年令階級 \ 年次	1742	1813~1845	1870
21 ~ 60	47.8 (42.1~53.6)	57.7 (55.8~59.6)	50.3 (45.3~55.2)

即ち、1813~1845においては、人口は明らかに老令化している。

老令化を性別に検討すると次の結果を示す。

年令階級 \ 性別	1742		1813~1845		1870	
	男	女	男	女	男	女
1 ~ 40	72.6(65.2~78.5)	64.4(56.7~72.1)	65.1(62.7~71.2)	65.7(58.3~71.2)	71.8(63.6~77.2)	68.2(61.8~73.6)
41 ~	27.4	35.6	34.9	34.3	28.2	31.8

1813~1845で、男の老令化が著しい。男が延命上有利になつたか、或いは青年層が他へ出たか、何れかでなければならぬが、後者と考えるのが至当であろう。何となれば、この時代は性差が縮まるのが今まで見たところであるが、次項で明らかにするように、僅かではあるが拮抗を傾向にあるからである。註

註 このことは更に、山川郷成川村で詳しくするであろう。

## 3. 年令階級別性比

第2表に示す通り1742とそれ以降では統計的に有意性はないが、性比に大きな開きを見せている。註

之を年令階級別に見れば、次の通りである。

以上、何れの年齢階級でも有意の差を示さないことは1742の例数が少いためであると思われるから、この期のものを集める必要がある。統計的有意性を除いて考えると、次のことがいえる。

年令階級 \ 年次	1742	1813~1845
1 ~ 20	57.6 (48.6~65.7)	52.4 (48.7~56.1)
21 ~ 40	57.6 (46.9~71.6)	49.4 (45.7~53.1)
41 ~ 60	54.5 (40.0~63.9)	51.2 (48.2~55.7)
61 ~	44.0 (27.1~58.4)	50.7 (44.7~56.4)
1 ~ 40	57.7 (50.3~64.6)	50.9 (47.8~53.9)
41 ~	48.6 (39.5~58.2)	51.5 (47.8~55.9)

1. 1742 他所ではこの時期では、年齢が上るにつれて性差は開いてゆく傾向にあるが、

こゝでは逆に縮つてゆく。これが何を意味するかは、にわかに断言できない。

2. 1813~1845 他所ではこの時期には、年齢が上るにつれて縮少してゆくが、こゝでは殆んど変わらない。むしろ僅かではあるが開いている。前項で青年層の男子が他へ出ていつたのではないかと推定した所以である。

また、他所では性比が幾ら縮まつても、せいぜい52~53であつたが、こゝではそれが極端になつて、男女ほぼ等しいところまでいつている。この点では恐らく伊作の特徴ではないかと思う。

註. 性比の断層は、山崎では1737~1761、蒲生では1826~1853の間に認められる。

#### 4. 配 偶 関 係

年齢階級別に女の配偶関係を示すと次の通りである。

年令階級 \ 年次	16~50	16~30	31~50
1742	66.0 (53.7~75.2)	44.0 (29.3~60.0)	90.6 (75.0~96.3)
1824	76.7 (66.2~84.4)	61.5 (44.7~75.3)	88.2 (75.4~94.3)
1834	65.8 (58.0~73.0)	54.2 (42.2~65.4)	74.2 (65.4~83.9)
1838	44.2 (35.9~53.0)	19.1 (11.8~33.8)	64.9 (53.9~74.4)
1845	65.5 (58.9~70.9)	62.3 (54.0~69.9)	69.0 (60.5~77.0)
1870	53.0 (44.3~61.4)	38.5 (28.0~50.0)	68.8 (58.1~78.7)

一見非常に複雑である。特に1838には有意の差で減少している。しかし、天保の飢饉と関係があるかどうかは速断できない。これを除いて1824, 1834, 1845を一括すると次の結果を示す。

年令階級	配 偶 率
16 ~ 50	67.4 (62.8~71.5)
16~30	60.0 (53.0~65.8)
31~50	74.0 (68.0~79.0)

即ち、1742とは31~51で有意の差を示して

いる。1742, 1870が16~30で、高い比率を示さないのは、或は人口の増加期にあるということが関係するとも思われる。

何れにしても、1824~1845では配偶率は低下している。また、1870には更に悪くなつている。註

註 1824~1845の配偶率は、同期の山崎より、やゝ良好である。

#### 5. 出 生

	平均生子率	有配偶生子率	平均人口	16~50 有配偶数	部落別
1824	23.6	159.4	311	46	在郷百姓
1845	21.6	132.1	569	93	在郷百姓
〃	13.7	85.0	260	42	浜
1824~1845	22.4 ± 0.27	142.7 ± 4.36	880	139	在郷百姓

1845の在郷と浜とで、非常な相違を見せているが、どうした理由かは更に検討したい。

1742と比較できないのは惜しいが、ほぼ同期の山崎の出生率20、有配偶生子率140であつたことを思い合せると興味深いものがある。

## 6. 死亡, 移動

死亡及び移動については資料を得られなかつた。

## 5. 吉利

### I 引 用 記 録

記録番号

- |       |    |        |        |      |
|-------|----|--------|--------|------|
| 1. 享保 | 11 | (1726) | 竿次帖    | 38   |
| 2. 〃  |    |        | 〃      | 39 註 |
| 3. 寛政 | 2  | (1790) | 知行高名寄帖 | 40   |

註 2. は残簡表紙なし。記録番号38と門が2つ重なつている。

### II 統計資料

第1表 年令階級別人口百分比

年令階級	1726	1790	1726~1790
1 ~ 5	8.4	5.7	7.4
6 ~ 10	9.7	12.5	10.7
11 ~ 15	10.4	4.5	8.3
16 ~ 20	9.1	14.5	11.2
21 ~ 25	6.5	13.6	9.1
26 ~ 30	10.4	5.7	8.7
31 ~ 35	11.7	4.5	9.1
36 ~ 40	3.9	4.5	3.3
41 ~ 45	9.7	8.0	9.1
46 ~ 50	3.9	3.4	3.8
51 ~ 55	3.9	2.3	3.3
56 ~ 60	2.6	5.7	3.8
61 ~ 65	1.3	2.3	1.7
66 ~ 70	5.2	1.1	3.8
71 ~	4.5	11.4	7.0
総 数	154	88	242

第2表 性 比 (人口100中男)

1723	55.0 (51.9~58.0)	1790	60.2 (51.4~68.6)
1726	55.8 (49.2~63.9)	1723~1790	55.5 (53.6~57.4)

第3表 年令階級別有配偶率

年令階級	年次	1726~1790	年令階級	年次	1726~1790	年令階級	年次	1726~1790
16 ~ 20		11.9	36 ~ 40		83.3	61 ~ 70		42.9
21 ~ 25		61.5	41 ~ 45		85.6	71 ~		42.9
26 ~ 30		62.7	46 ~ 50		60.0	配 偶 数		50
31 ~ 35		82.3	51 ~ 60		54.5			

Ⅲ 動 態 大 要

1. 人 口 の 推 移

資料からは知ることができなかつた。

2. 年 令 構 成

年令階級	年次	1726	1790	1726~1790
1 ~ 20		37.7	37.5	37.6 (32.5~43.3)
21 ~ 40		31.2	28.4	30.2 (25.1~36.3)
41 ~ 60		20.1	19.3	19.8 (17.5~24.2)
61 ~		11.0	14.8	12.4 ( 9.3~16.7)
1 ~ 40		68.8	65.9	67.8 (62.0~73.0)
41 ~		31.2	34.1	32.2

3. 性 別 年 令 構 成

年令階級	年次	1726		1790	
		男	女	男	女
1 ~ 20		46.5	26.5	45.3	25.7
21 ~ 40		26.7	36.8	20.8	40.0
41 ~ 60		16.3	25.0	20.8	17.1
61 ~		10.5	11.8	13.2	17.1
1 ~ 40		73.3	63.2	66.0	65.7
41 ~		26.7	36.8	34.0	34.3

4. 配 偶 関 係

年令階級	年次	1726	1790	1726~1790
16 ~ 50		61.5	66.6	63.3
16 ~ 30		41.2	53.8	46.7
31 ~ 50		77.3	87.5	80.0
51 ~		46.7	50.0	48.0
配 偶 数		31	19	50

以上の結果の概要を述べれば次の通りである。

1. 年令構成では1790は既に老令化が始つていのではないか。性別には女の老令の比重が高くなつていゝる。
2. 性比は他と同じく之の期は高い。然し年令階級別に見ると、複雑で判断が五ヶ敷しい。
3. 配偶関係は余り良好とはいえない。

5. 年令階級別性比 (人口100中男)

年令階級	年次	1726	1790
1 ~ 20		69.0	72.7
21 ~ 40		47.9	44.0
41 ~ 60		45.2	64.7
61 ~		53.5	53.8
1 ~ 40		59.4	61.4
41 ~		47.9	60.0

## 引用記録(山崎)

年号	記録名	記録番号
1. 元祿3	白川村, 泊野村人数改帖,	1
2. 宝永2	二渡村, 白男川村, 泊野村, 人数改帖	2
3. 享保6	山崎宗門手札改帖	3
4. //	衆中人数宗門手札改帖	4
5. 元文2	二渡村宗門改人数帖	5
6. 宝曆11	二渡村宗門改人数帖	6
7. 天明6	二渡村宗門手札改人数帖	7
8. //	二渡村, 白男川村, 泊野村百姓人数改帖留	8
9. 寛政12	二渡村宗門改帖	9
10. //	白男川村宗門手札改帖	10
11. 文化12	山崎宗門手札改人数総帖留	11
12. 文政2	切支丹宗門御改人数総帖	12
13. //	二渡村, 白男川村, 泊野村宗門手札改帖	13
14. 天保2	山崎村, 久富木村宗門手札改帖留	14
15. //	山崎村宗門手札改帖留	15
16. 弘化2	山崎宗門手札改人数出入窺帖	16
17. 嘉永5	山崎宗門手札改人数総帖	17
18. //	山崎村, 久富木村宗門手札改帖留	18
19. 安政6	山崎村, 白男川村, 泊野村宗門手札帖	19